

上の階で

ロサリオ：どうぞお入りになって、どうぞ。

アントニア：こんにちは、よろしいですか？

ロサリオ：どうぞ、どうぞ、お入りになって、貴女もイスタンブールへ？

アントニア：ええ、私もイスタンブールへ。

ロサリオ：ああ、良いですね、旅の終わりまで一緒できますね。

アントニア：ええ、一人旅は嫌なのです。

ミゲル：ほら、こぼしているね。ええ、これで良いかな？

今日はお腹が空いているのだね、全部食べたね。さて、少しこの辺りを片付けようか。

オクーパー：ミゲル！ くそやろう、ストローをこっちにむける、私の方にむける。

ミゲル：しかし、痩せこけ、何たる言葉だ、いつか石鹸であんたの口を洗わないとね。

君には何度も言っているだろう、エミリオは汚い言葉が嫌いなのだ。

オクーパー：エミリオは皆と同じだ、何も理解できない。

ミゲル：痩せこけ、それは大間違いだ、ちゃんと分かっている、大事なことは分かっている。

そうだろう、ロッケフェレ？

皆さんにささげる

今日のお年寄りに

明日のお年寄りに

フルーツと野菜の店の前で

マルチン：ミル、騒いでは駄目だよ、店の中に入れたいのは分かっているだろう。

シッ！シッ！ミルウ、シッ！ミルウ、ここにお座り。

ああ！ミルウ！ミルウ！ああ！だめ、だめ、神様

ミルウ！ミルウ！何と大変なことを私に、ミルウ！

ああ無事で良かった。もうこんなうっかりはあってはならない。